

全国調査

I 調査目的

全国の特別支援学級・通級指導教室設置学校の課題を把握するとともに、今後の特別支援教育の推進や充実、国への提言等を検討するための基礎データとする。

II 調査対象

各都道府県において知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級及び通級指導教室を設置する小・中学校の校長（全特協の各地区理事を通して、約10%の抽出）

III 調査期間 令和4年8月15日（月）～ 令和4年9月2日（金）

IV 調査内容

- 1 基本調査（教職員数、校長自身の教職経験 等）
- 2 特別支援学級担任・通級指導教室担当教員の専門性向上に向けた取組について
- 3 特別支援教育の経験を有する教師を増やすための人事上の工夫について
- 4 自立活動の指導と関連を図った各教科等の指導の実施状況、及び交流及び共同学習における教育的ニーズ等の共有状況
- 5 その他

V 回答方法

- ・令和4年8月1日現在の貴校の状況について回答してください。
- ・校長先生ご自身が入力してください（調査にかかる時間は約15分程度です）。
- ・全特協のホームページ上「令和4年度全国調査」から回答してください。ウェブでの回答ができない場合は、「令和4年度全国調査」「全国調査回答用紙」をダウンロードし、調査部長宛て、電子メール、郵送、ファクシミリいずれかの方法で調査回答用紙をご提出ください。

〔問合せ先〕

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 調査部長 大湊 由紀子
江東区立亀高小学校

〒136-0073 東京都江東区北砂5-20-16

電話 03-3640-5324

ファクシミリ 03-5690-4031

E-mail yominato@koto-edu.jp

1 基本調査（教職員数、校長自身の教職経験等）

(1) 学校が所在する都道府県名をご記入ください。（例 ○○県）

(2) 学校名をご記入ください。（例 ○○市区町村立○○小・中学校）

(3) 学校種等を選択してください。

- ア 小学校
- イ 中学校
- ウ 義務教育学校

(4) 貴校に設置している知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級、通級指導教室（以下、「学級等」という）をすべて選択してください。

- ア 知的障害特別支援学級
- イ 自閉症・情緒障害特別支援学級
- ウ 通級指導教室

(5) 貴校の学級等に在籍する児童生徒数を記入してください。

- ア 知的障害特別支援学級
- イ 自閉症・情緒障害特別支援学級
- ウ 通級指導教室

(6) 貴校の学級等のそれぞれを担当及び担当する正規雇用の教員の人数を選択してください。

※ 「正規雇用の教員」とは、常時勤務する者を指し、常勤講師や産休代替者及び育児休業代替者を含めます。また、再任用制度により採用された教員は、常時勤務する場合には含めません。

- ア 0名
- イ 1名
- ウ 2名
- エ 3名
- オ 4名
- カ 5名
- キ 6名以上

(7) 貴校の学級等それぞれを担当する正規雇用以外の教員の人数を選択してください。

※ 「正規雇用以外の教員」とは、非常勤講師などを指します。

- ア 0名
- イ 1名
- ウ 2名

エ 3名以上

(8) 貴校の学級等それぞれを担当する特別支援教育支援員の人数を選択してください。

※ 「特別支援教育支援員」とは、教育免許状等の資格は不問であり、直接児童生徒に支援をしている者を指します。名称は各自治体により異なります。

ア 0名

イ 1名

ウ 2名

エ 3名以上

(9) 貴校の学級等それぞれの主任について伺います。主任の教職経験年数（令和4年3月現在）を選択してください。

※ 「主任」とは特別支援学級のリーダー的な立場の教員を指します。特別支援学級に1人しか教員がない場合には、その教員を「主任」とします。

ア 1年以上6年未満

イ 6年以上11年未満

ウ 11年以上16年未満

エ 16年以上21年未満

オ 21年以上26年未満

カ 26年以上31年未満

キ 31年以上

(10) (9) で答えたそれぞれの主任の学級等での経験年数（令和4年3月現在）を選択してください。

ア 1年

イ 2年

ウ 3年

エ 4年

オ 5年

カ 6年以上11年未満

キ 11年以上

(11) (9) で答えたそれぞれの主任の特別支援学校教諭免許状の保有状況を選択してください。

ア 保有している

イ 保有していない

ウ 現在、取得中

(12) (9) で答えたそれぞれの主任は、特別支援学校での勤務経験がありますか。

ア ある

イ ない

- (13) 校長自身の通級による指導や特別支援学級、特別支援学校などでの教職経験を選択してください。（ア、イ、ウについては複数回答可）
- ア 通級による指導での教職経験がある
 - イ 特別支援学級での教職経験がある
 - ウ 特別支援学校での教職経験がある
 - エ 通級による指導、特別支援学級、特別支援学校にかかわる教職経験はない

2 特別支援学級担任・通級指導教室担当教員の専門性向上に向けた取組について

- (14) 自校の特別支援学級や通級指導教室の担任と、自校の通常の学級の担任とが特別支援教育に関して相互に学び合う工夫や仕組みはありますか。
- ア 相互に学び合う工夫や仕組みはある→(15)へ
 - イ 相互に学び合う工夫や仕組みはない→(16)へ
 - ウ 相互に学び合う工夫や仕組みはつくる予定である→(16)へ

- (15) (14)でアと回答した相互に学び合う工夫や仕組みについて、あてはまる内容を選択してください。（複数回答可）
- ア 自校の通常の学級の担任が、特別の教育課程に基づく個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に携わる機会を設けている。
 - イ 通常の学級の担任が、自校の特別支援学級の児童生徒と日常的に携わる機会を設けている。
 - ウ 特別支援学級や通級指導教室の担任と通常の学級の担任との交換授業を行う機会を設けている。
 - エ 国立特別支援教育総合研究所の学習コンテンツを活用するよう推奨している。
 - オ その他、工夫や仕組みがあれば記述してください。

- (16) 学校全体の課題として特別支援教育に取り組むために行っていることを選択してください。（複数回答可）
- ア 学校経営方針や学校経営計画に特別支援教育に関する目標を設定している。→(17)へ
 - イ 特別支援教育に関する内容を学校評価の項目・指標に盛り込んでいる。→(18)へ
 - ウ 日頃から特別支援教育に関する知見を習得する必要性やキャリアパス(※)について教員と対話している。→(18)へ
 - エ その他（)

※ 本調査では、キャリアパスを以下のような意味で使用する。

「キャリアパス (Career path)」とは、人材育成制度の中でどのような職務にどのような立場で就くか、またそこに到達するためにどのような経験を積みどのようなスキルを身に付けるか、といった道筋のことをいう。

- (17) (16)でアを選択した場合、具体的な内容について選択してください。(複数回答可)
- ア 特別支援教育を学校全体で行うために必要な体制の構築を念頭に置いた記述がある。
 - イ 特別な支援を必要とする子供を含め全ての子供に対する授業づくりや環境作りの実現に関する記述がある。
 - ウ 特別支援学級、通級による指導の運営について記述がある。
 - エ 全教師の特別支援教育に対応する専門性を高めることについて記述がある。
 - オ 特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任等の人材育成について記述がある。
 - カ 保護者や地域に対する特別支援教育の理解啓発に関する記述がある。
 - キ 学校間や関係機関との連携の推進に向けた記述がある。
 - ク その他 ()

- (18) 校長自身が特別支援学級担任や通級指導教室担当教員に指導・助言している内容を選択してください。(複数回答可)
- ア 特別支援学級や通級指導教室の教育課程の編成について
 - イ 教科別の指導や教科等を合わせた指導について
 - ウ 自立活動の指導について
 - エ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用、計画の見直しについて
 - オ 交流及び共同学習の在り方について
 - カ キャリア教育を含めた、障害のある児童生徒の進路指導について
 - キ 合意形成と合理的配慮の提供について
 - ク 保護者相談の在り方、保護者への対応について
 - ケ 専門機関(医療、福祉等)との連携について
 - コ 特別支援教育のセンター的機能や地域資源の活用について
 - サ 国や都道府県の特別支援教育に関する情報について
 - シ 通常の学級に在籍する障害のある児童生徒や個別の支援が必要な児童生徒への指導方法について
 - ス ユニバーサルデザインによる授業づくり、学習環境づくりについて
 - セ 校内での教育支援体制づくり及び校内委員会の在り方について
 - ソ その他 ()

- (19) 特別支援学級担任や通級指導教室担当教員の専門性を活用した取組について選択してください。(複数回答可)
- ア 通常の学級に在籍する障害のある児童生徒のアセスメントについて
 - イ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用、計画の見直しについて
 - ウ 教育的ニーズのある児童生徒に応じた具体的な支援、指導の方法について
 - エ 合意形成と合理的配慮の提供について
 - オ 交流及び共同学習の在り方について
 - カ 特別支援学校のセンター的機能の活用方法について
 - キ ユニバーサルデザインによる授業づくり、学習環境づくりについて
 - ク キャリア教育を含めた、障害のある児童生徒の進路指導について
 - ケ 校内での教育相談体制づくり及び校内委員会の在り方について
 - コ 保護者相談の在り方、保護者への対応について

- ケ 通級指導教室の主幹教諭
- コ 養護教諭
- サ 主任養護教諭
- シ 主幹養護教諭

- (23) 自校の教員のキャリアパスを意識して、特別支援教育コーディネーターを指名していますか。
- ア 意識して指名している
 - イ 特段意識していない
 - ウ 今後、意識していく予定である

3 特別支援教育の経験を有する教師を増やすための人事上の工夫について

- (24) 貴校に勤務する正規雇用の教員のうち、採用後 10 年までの教員の人数を記入してください。
- () 人

- (25) (24) のうち、特別支援教育を 2 年以上経験したことのある教員の数を記述してください。
- ア 通級による指導の教職経験 () 人
 - イ 特別支援学級の教職経験 () 人
 - ウ 特別支援学級における教科担任の経験 () 人
 - エ 特別支援学校での教職経験 () 人
 - オ 特別支援教育コーディネーターとしての経験 () 人
 - カ ア～オのいずれにも該当しない () 人

- (26) 貴校の通常の学級担任を含む教師について、特別支援教育の経験者を増やすことを念頭においた人事配置を行っていますか。
- ア 行っている
 - イ 行っていない

4 自立活動の指導と関連を図った各教科等の指導の実施状況及び交流及び共同学習における教育的ニーズ等の共有状況

(以下の質問は、特別支援学級を設置している学校がご回答ください)

- (27) 交流及び共同学習の実施に当たり、行っていることを選択してください。(複数回答可)
- ア 個別の指導計画に位置付けている
 - イ 年間指導計画を作成している
 - ウ 学習指導案(略案)を作成している
 - エ 共同学習において、交流する教科等のねらいを設定している
 - オ 「交流」と「共同学習」の授業時数のバランスを考え計画している
 - カ 行っていない

(28) 交流学习及び共同学習の実施は、何を基準に決定しますか。(複数回答可)

- ア 特別支援学級の児童生徒の障害の状態
- イ 特別支援学級の児童生徒の希望や興味関心
- ウ 特別支援学級の児童生徒の教科等の学力保障
- エ 通常の学級の児童生徒の状態
- オ 特別支援学級の担任の経験や指導力
- カ 通常の学級の担任の経験や指導力
- キ 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の希望
- ク 教育委員会等行政機関の方針
- ケ 医療福祉機関等の関係諸機関との検討結果

(29) 交流及び共同学習を実施する際、効果的だと考える工夫や仕組があれば記入してください。(自由記述)

※ 知的特別支援学級を設置している学校は、(30)～(33)にご回答ください。
自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している学校は、(34)～(37)にご回答ください。

(30～33)の質問は、知的特別支援学級を設置している学校にご回答ください。

(30) 知的特別支援学級の担任は、児童生徒が自立活動で学んだことを、各教科等の学習で生かせるように指導していると思いますか。

- ア 十分できている → (31) へ
- イ おおむねできている → (31) へ
- ウ どちらかというとできていない → (32) へ
- エ ほとんどできていない → (32) へ

(31) 知的特別支援学級において児童生徒が自立活動で学んだことを各教科等の指導で生かすために、特別支援学級担任が工夫していることを下記の選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ア 自立活動の指導を計画する際に、児童生徒の各教科等の指導を行う場合に生ずる困難さや長所・得意としていることなどの的確に把握している。
- イ 交流学級担任と児童生徒の学習状況に関する情報を交換し、各教科等の指導の学習の進捗状況や手立て・配慮等について相談しながら進めている。
- ウ 校内で自立活動の内容を含め、支援が必要な児童生徒の実態や指導に関する教職員の理解を促している。
- エ その他 ()

(32) 知的特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の実施にあたり、特別支援学級の児童生徒の実態や教育的ニーズ等を教員間で共有していると思いますか。

- ア 十分できている → (33) へ

- イ おおむねできている → (33) へ
- ウ どちらかというとできていない→自閉症・情緒学級を設置している場合(34)へ
していない場合は(38)へ
- エ ほとんどできていない→自閉症・情緒学級を設置している場合(34)へ
していない場合は(38)へ

(33) 知的特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を実施する際に、特別支援学級の児童生徒の実態や教育的ニーズ等を関係者で共有するための工夫について、下記の選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ア 年度当初に交流及び共同学習の意義やねらい等を全教職員で共有する場を設けている。
- イ 交流及び共同学習の時間を計画する際に、特別支援学級担任と交流学級担任が、年間計画や単元計画について相談している。
- ウ 学期末や学年末等に交流及び共同学習の成果と課題を特別支援学級担任と交流学級担任が共有する場を設けている。
- エ その他 ()

(34～37)の質問は、自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している学校が、ご回答ください。

(34) 自閉症・情緒障害特別支援学級の担任は、児童生徒が自立活動の時間における指導で学んだことを、各教科等の学習で生かせるように指導していると思いますか。

- ア 十分できている → (35) へ
- イ おおむねできている → (35) へ
- ウ どちらかというとできていない → (36) へ
- エ ほとんどできていない → (36) へ

(35) 自閉症・情緒障害特別支援学級において、自立活動の時間における指導で学んだことを各教科等の指導で生かすために、特別支援学級担任が工夫していることを下記の選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ア 自立活動の指導を計画する際に、児童生徒の各教科等の指導を行う場合に生ずる困難さや長所・得意としていることなどの的確に把握している。
- イ 交流学級担任と児童生徒の学習状況に関する情報を交換し、各教科等の指導の学習の進捗状況や手立て・配慮等について相談しながら進めている。
- ウ 校内で自立活動の内容を含め、支援が必要な児童生徒の実態や指導に関する教職員の理解を促している。
- エ その他 ()

(36) 自閉症・情緒障害特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の実施にあたり、特別支援学級の児童生徒の実態や教育的ニーズ等を教員間で共有していると思いますか。

- ア 十分できている → (37) へ
- イ おおむねできている → (37) へ
- ウ どちらかというとできていない→(38)へ
- エ ほとんどできていない→(38)へ

(37) 自閉症・情緒障害特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を実施する際に、特別支援学級の児童生徒の実態や教育的ニーズ等を関係者で共有するための工夫について、下記の選択肢からお選びください。（複数回答可）

ア 年度当初に交流及び共同学習の意義やねらい等を全教職員で共有する場を設けている。

イ 交流及び共同学習の時間を計画する際に、特別支援学級担任と交流学級担任が、年間計画や単元計画について相談している。

ウ 学期末や学年末等に交流及び共同学習の成果と課題を特別支援学級担任と交流学級担任が共有する場を設けている。

エ その他（ ）

5 その他

(38) 特別支援教育についての課題や、充実させるためのご意見等がありましたら記入してください（自由記述）。

--

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。